

水田除草剤の上手な使い方を教えてください

除草に関する Q&A

水田除草剤の上手な使い方を教えてください。

お答えします

1. 内容

- 除草剤による高い除草効果を得るためには、①圃場に適した薬剤の選択、②適期散布、③除草効果を低下させない水管理が重要です。

2. 解説

① 圃場に適した薬剤の選択

除草剤は複数の有効成分で構成されていますが、その組み合わせ次第では、特定の草種が残草することがあります。残草した草種名や写真を記録した上で普及指導員などに相談すると、翌年の的確な対策が立てやすくなります。

② 適期散布

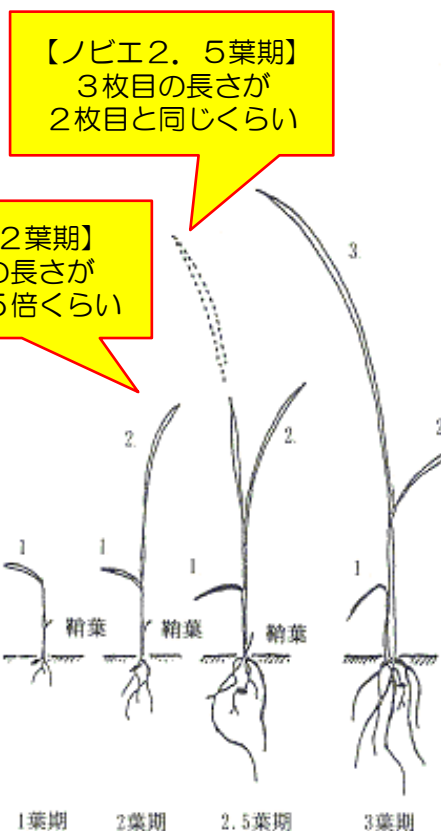
使用時期を超えて生長した雑草は、除草効果が劣ることから、ノビエなどの雑草の生育を見極めた適期散布が重要です。

散布適期を逃さないように、薬剤の処理晩限より0.5葉程度早めの散布をお勧めします。

移植後日数とノビエ葉齢の目安

地域	移植後日数		
	2葉期	2.5葉期	3葉期
北海道	12日	15日	18日
東北	10日	12日	15日

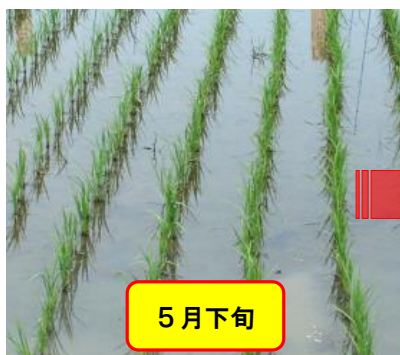
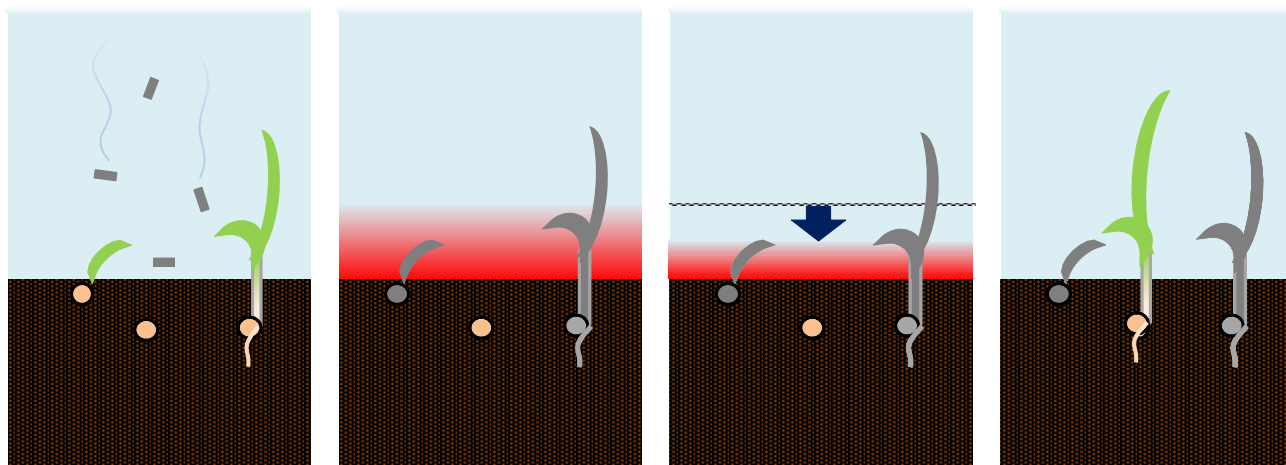
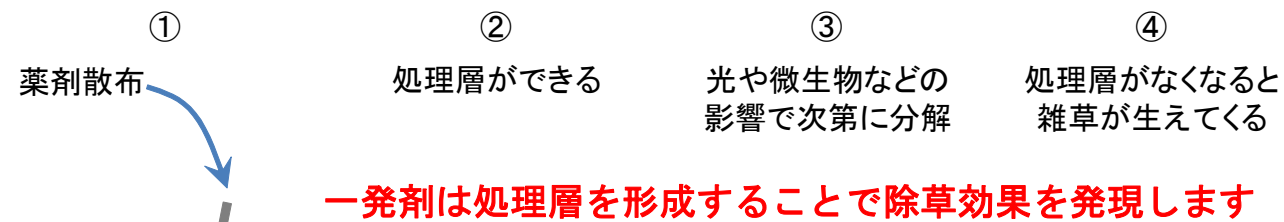
ノビエの葉齢が0.5葉進む日数の目安は2～3日ですが、気温の高い日では1日で0.5葉近く進むこともあります。



③ 除草効果を低下させない水管理

除草剤には、除草効果を発揮させるための条件が注意事項に記されています。使用前に使用条件を確認してください。

例えば、一発剤では、処理時の水深を5cm程度とし、掛け流しを行わないことや漏水対策などにより、除草剤が形成する処理層を長く維持する水管理が重要です。



処理層による残効期間は40日くらい

- ・ 用水の掛け流しをしない
- ・ 畦畔の補強（漏水対策）
- ・ 圃場の均平（田面の露出防止）



関連情報

毎年、新規除草剤の選定試験を行っており、青森県で実用性の高い除草剤の選出を行っています

